

開発スペース 3倍増

アルハイテック 高岡に研究棟



アルハイテックが開設した研究開発棟＝高岡市オフィスパーク

環境ベンチャーのアルハイテック(高岡市オフィスパーク、高田和夫社長)は、本社隣に研究開発棟を開設した。廃アルミから水素を生成する独自技術を進化させるため、開発スペースを従来の3倍に広げた。今後は人員も増やす予定で、事業拡大を目指す。

研究開発棟は、本社隣接地を取得して建設し、鉄骨2階建て延べ約600平方メートル。開発スペースのほか、事務スペースや会議室、応接室もある。総事業費は2億円。

同社は2013年に設立し、独自技術で廃アルミから水素と副産物の水酸化アルミを製造する装置を販売している。現在の社員数は14人。

新設した研究開発棟では専用設備をそろえ、水素を発生させる際に使用する反

応液について研究を進めるなど、独自の技術力をさらに高めることを目指す。検査体制も強化する。

8日は完成式が行われ、関係者約50人が出席。高田社長が「今後の事業展開を支える新たな拠点。脱炭素社会の実現に向け、成長に努める」とあいさつし、出町讓高岡市長らが祝辞を述べた。